

各区地域包括ケアに関する取組

博多区

○概況

令和2年3月末現在

【人口動態，地形，生活環境等の地域特性】 博多区は，JR博多駅，博多港，福岡空港を抱える陸・海・空の玄関口であるとともに，国道3号が区内を縦断する交通の中枢となっている。博多駅を中心とする北部の都市部と，都市周辺，南部の郊外住宅地に大別される。生活の便が良い地域が多いが，空港の東側の丘陵地などは，車以外では不便な地域もある。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率は市の中で1番低いが，地域差は大きい。高齢者の世帯状況を見ると，半数が独居であり比率・世帯数とも市内で1番高い。博多駅周辺は，オートロックマンションに住む高齢者が増え，その中には地域との関わりを拒む方が多い。そのため見守り体制，地域との交流が難しい現状が多発している。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関，地域コミュニティの状況）】 社会資源・地域コミュニティともに地域の差は大きい。都心部は特に，住民間の関係性の希薄化が進んでおり，地域での見守りや支援体制がとりにくい現状がある。 地域貢献に関心を持っている事業所により事業所ネットワークの立ち上げが進んでおり，この1年間で3ヶ所増え，計6ヶ所となり，今後の地域支援への協力が期待できる。	人口（人）	221,352
	高齢者数（人）	41,334
	高齢化率（％）	18.7
	小学校区数 （自治協議会数）	18 (22)
	いきいきセンター 圏域数	8


○地域包括ケアに関する現状と課題

- ・単身高齢者が多い博多区では，「支援を行う上で，個人情報保護の関係から困ることが多い」との声が，各専門部会3部会とも共通で挙がっていた。そこで今年，3部会合同での「個人情報保護」をテーマとして研修を行い，法の解釈と実際の活動について話し合いを行った。
- ・圏域連携会議への地域の支援者である民生委員の参加が増え，医療・介護の支援者と意見を交わすことで，お互いの役割の認識，顔の見える関係づくりが始まっている。
- ・地域の事業所が事業所ネットワークを作り，市民啓発や日常生活支援など地域貢献を始めようとの意識が高まっているが，地域とのつながりの方法に悩んでいる現状がある。
- ・今後事業所ネットワーク活動が，継続していけるよう区レベルの事業所ネットワーク「ワンチームHAKATA」を支援していく必要がある。

1. 令和2年度取組の中で，特徴あるもの


取組内容

(1)ワンチームHAKATAの（博多区事業所ネットワーク）活動支援
 令和元年2月に立ち上がった博多区事業所ネットワーク「ワンチームHAKATA」が始動。
 ①圏域を超えての事業所ネットワーク間の連携，情報共有，顔の見える関係づくり
 ②地域との結びつきを図り，地域と事業所ネットワークの協働に向けた取り組み。
 以上を目的とした取り組みを行っていく。
 ワンチームHAKATAリーダー会が核となっていき，事業所ネットワークが地域との連携が強まり，無理なく長く活動を続けられるよう支援を行う。



博多区事業所ネットワーク ワンチーム HAKATA

(2)校区主体の「プラン」づくりと具体化（見える化）を通じた，支え合い活動の推進
 博多区は南北に長く，校区ごとに沿革，人口流動性，企業・事業所の立地など多くの面で幅が大きく，高齢化の課題の抽出や解決の取り組みを，地域特性により即して進めることが重要になっている。
 そこで，自治協等が主体となり校区の高齢化の課題や解決策を話し合い，結果を「校区プラン」にまとめ（見える化），次年度以降，介護予防，生活支援の継続した支え合いの取り組みが推進されるよう，支援する。



R元年度作成 御供所地区プラン

【R2年度 プラン作成予定校区】 2校区

2. 令和元年度の取組状況

① 個別支援における成功事例，課題など（個別支援会議の傾向など）	
【検討内容】 認知症がある単身生活の方，安否確認が必要だが介入が困難な方，家族へも支援が必要な方，精神症状が強い方への支援等 【参加者】 医療，介護の専門職・民生委員・町内会長 等	
個別支援会議開催状況 ・会議回数：56回	
② 住民同士の助け合い・支えあい活動	
【校区主体のプランづくりと振り返りを通じた，支え合い活動の推進（見える化による推進）】 ○「校区プラン」の新たな作成 ～2校区（地区）〔御供所，春住〕で作成 ◆年度末現在作成済校区 ～17校区（地区）/22校区（地区）中 【校区プランを活用した支援活動の充実】 ○よかとレ実践ステーション登録 94か所（前年度から43か所増） ○ふれあいサロン開設 50か所（前年度から3サロン増） ○見守りマップの作成・更新 14校区で作成・更新（前年度から2校区増） ○認知症キッズサポーター講習 9校〔小7校，中2校〕（前年度から2校増，新規735名受講） ○買い物支援 5校区（前年度から1校区増）	
	
春住校区プランづくり会議	
	
御供所地区 介護予防活動	
高齢者地域支援会議 開催状況	・開催校区：17校区（地区），延べ21回（地域包括支援センター主催（2回）を含む） ・テーマ：高齢化の課題と取り組み方向，単身世帯の見守り支援，介護予防の場づくり促進 等
③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組	
・地域包括支援センター主催の高齢者地域支援会議（2校区2回開催），圏域連携会議（7圏域，8回） 「医療・介護の専門職と地域の支援者の連携」を強化する目的とし，民生委員の参加も増え，医療・介護の専門職との意見交換を行った。その中で地域の困りごと，ニーズを直接聞くことで，事業所ネットワーク立ち上げの意識付けとなった圏域があった。	
・ケアマネジャー，医療ソーシャルワーカー，訪問看護ステーション情報交換会（1回） 今年は，今後主任ケアマネが主となり継続開催できるを目標に主任ケアマネからのヒアリング兼ねた会議を実施。その中で協力者を募り，事前打ち合わせ2回後開催に至った。参加者間の顔の見える関係づくりが進んでいる手ごたえはあったが，主任ケアマネが主体的な運営まではまだ準備が必要であり，今後地域包括支援センターと協働し取り組んでいく。	
・ワンチームHAKATA（博多区事業所ネットワーク）結成 令和元年度に新規3つの事業所ネットワークが立ち上がり，5圏域6つの事業所ネットワークができた。事業所交流会2回開催し，各事業所ネットワークのリーダー会ができた。リーダー会を2回開催①圏域を超え事業所ネットワーク間の情報交換，顔の見える連携づくり②医療・介護の専門職が，専門領域での活動のみならず，地域の支え手不足による介護予防・生活支援領域で地域と協働していくことを目的とした活動を行うワンチームHAKATAが結成された。	
圏域連携会議 開催状況	・会議回数：7圏域，8回
④ 区レベルの取組（特徴ある取組）	
・博多区在宅医療・介護の出前講座（14回実施・427人受講 ※新型コロナのため2回キャンセル） ①高齢者自身が，自分事として今後に備える意識づけ②講師となることで医療介護の専門職が，地域貢献について考えるきっかけ以上の2つを目的として実施3年目。講師を地域の中の医療介護の専門職が行ったことで，住民側は質問しやすく理解度が増し，専門職も地域からの声を得たことで，地域貢献について関心が深まった。次年度は事業所ネットワークが引き継いで対応してもらうことになった。	
区地域包括ケア 推進会議開催状況	・区地域包括ケア推進会議1回 ・部会 ①在宅医療・介護部会：2回，②権利擁護部会：2回，③生活支援・介護予防部会：2回 ※うち1回は合同実施「個人情報保護について苦慮していること」情報共有，研修「個人情報保護の法的解釈」

その他，在宅医療・介護連携の推進に関する取組，事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修会	博多区医師会が中心に実施する「多職種連携研修会」を，年3回開催
同一業種による連絡会開催	①訪問看護ステーション連絡協議会②ケアマネ会③主任ケアマネ会④医療ソーシャルワーカーの連絡会・定例会に参加，職域での課題について協議，行政情報の発信を行った。
市民向け講演会の開催	医師会主導「博多区地域包括ケアシステムフォーラム」テーマ「在宅高齢者と地域を水害から守るには」地域包括ケアシステムと在宅医療」実施 参加者65名
区地域包括ケア推進プロジェクト会議	地域保健福祉課，健康課，福祉・介護保険課，総務課，企画振興課，地域支援課，生涯学習推進課の課長・係長による会議（年2回）を通じ，区としての円滑な推進を進めた。